

特別支援のための実態把握チェックシート (高等学校用) 香川県教育委員会

このチェックシートは「今後の特別支援教育の在り方について」(最終報告)の中の参考資料を基に作成したものです。校内で気になる子どもの細かな実態把握を行うことにより、対応を考えていきます。以下の基準に該当する場合は、特別な教育的支援を必要としていると考えられます。校内委員会で支援策を協議したり、関係機関との連携を図ることが必要です。*基準に該当しない場合も一人一人のニーズに応じた支援をする必要があります。

- ①～⑥は、少なくとも一つの領域で得点合計12ポイント以上の場合
 ⑦と⑧は、一つ以上の領域で6ポイント以上の場合
 ⑨は、全ての項目の合計が22ポイント以上の場合

1 聞く	1	複数の(複雑な)指示が聞き取れず、その都度、迷ったり、混乱したりする。	0	1	2	3
	2	人の話を、しばしば聞きもらすことがある。	0	1	2	3
	3	個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。	0	1	2	3
	4	視覚情報なら理解できるが、口頭の指示においては理解が難しい。	0	1	2	3
	5	話し合いの流れが理解できず、話題についていけない。	0	1	2	3
		合計ポイント				

(チェック：0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

2 話す	1	適切な速さで話すことが難しい。(たどたどしく話す。とても早口である)	0	1	2	3
	2	話をするとき、たびたびことばにつまることがある。	0	1	2	3
	3	文法的に誤りの多い、不完全な話し方をする。(単語の羅列など)	0	1	2	3
	4	語彙が少なく、筋道の通った話をするのが難しい。	0	1	2	3
	5	話す内容がバラバラで、まとまりに欠け、相手に分かりやすく伝えることが難しい。	0	1	2	3
		合計ポイント				

(チェック：0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

3 読む	1	初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える。	0	1	2	3
	2	文中の語句や行を抜かしたり、繰り返し読んだりする。	0	1	2	3
	3	音読が遅い。またはたどたどしい。	0	1	2	3
	4	勝手読みがある。	0	1	2	3
	5	文章の要点を正しく読みとることが難しい。	0	1	2	3
		合計ポイント				

(チェック：0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

4 書く	1	読みにくく複雑な字を書く。(字の形や大きさが整っていない。まっすぐに書けない)	0	1	2	3
	2	独特の筆順で書く。	0	1	2	3
	3	漢字の細かい部分を書き間違える。	0	1	2	3
	4	視写が難しい。写すのに時間がかかる	0	1	2	3
	5	話し言葉と書き言葉を使い分け、正しい文法で記述することが難しい。	0	1	2	3
		合計ポイント				

(チェック：0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

5 計算する	1	数と計算について、2学年以上の遅れがある。	0	1	2	3
	2	簡単な計算が暗算で出来ない。	0	1	2	3
	3	計算をするのにとても時間がかかる。	0	1	2	3
	4	答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい。	0	1	2	3
	5	文章題を解くのが難しい。	0	1	2	3
		合計ポイント				

(チェック：0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

6 推論する	1	量の比較や量を表す単位の理解が難しい。	0	1	2	3
	2	図形を描くことが難しい。(丸やひし形などの図形の模写。見取り図や展開図)	0	1	2	3
	3	物事の因果関係を理解することが難しい。	0	1	2	3
	4	目的にそって行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい。	0	1	2	3
	5	早合点や、飛躍した考えをする。	0	1	2	3
		合計ポイント				

(チェック：0=ない、1=まれにある、2=ときどきある、3=よくある)

15. 教育相談・支援部より

合格おめでとうございます。

教育相談・支援部は、みなさんが安心して楽しく充実した学校生活を送れるよう応援します。

高校生活を送る中で相談したいことがあれば、クラス担任または教育相談・支援部の先生に気軽に声をかけてください。少しでも早く、こころの負担が減るように面談の調整をします。秘密は厳守しますので安心して相談してください。

◎教育相談室は1階、保健室横にあります。

こんな場合は一人で悩まず、気軽に相談しましょう

- *やる気が起こらず、学習や部活動に身が入らない
- *細かいことが気になって、集中できない
- *学校や家庭での人間関係がうまくいかない
- *悩みや不安があって眠れない、食べられない、気分が落ち込む
- *人と違って不安だ
- *将来や進路のことが考えられず悩んでいる



小豆島中央高校には相談にのってくれる教員の他に、こころの悩みや日常の相談にのってくれるスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーがいます。

スクールカウンセラー（SC）……………みなさんの悩みを聴き、こころの問題をサポートしてくれる人

スクールソーシャルワーカー（SSW）…家庭・学校・地域などみなさんを取り巻く環境の問題の解決に向けサポートしてくれる人

「アナザーベーシック」

小豆島中央高校では通称「アナザーベーシック」という活動を週1回の課外授業として実施しています。この活動は、みなさんが高校卒業後、親もとを離れて就職・進学した時に、しっかりと社会に適應して「自立」して生きていくために必要なことを身につけることを目標としています。内容は、個別の教科補習ではなく、一人ひとりのニーズに応じたものです。もう少しお話を聞いてみたいと思う人は、担任の先生か、教育相談室まで相談に来てください。



保護者の皆様へ

日々のお子様の成長を見守る中で、身体やこころの変化に対する戸惑いや、将来への不安などがあるかと思えます。心配なことや困ったことがあれば、お気軽にご相談ください。

保護者の方もSC・SSWに相談できますので、希望される場合は、担任もしくは教育相談・支援部の教員に声をかけてください。

また、アナザーベーシックに興味がおありの方、詳しく話を聞きたいと思われる方も教育相談・支援部にお声かけください。



年間目標は1年間で達成でき、学期目標は学期内で達成できるようなスモールステップの目標設定にする。

毎年作成する。

個別の指導計画 **記入例**

作成日 令和元年 5月 10日 記入者 (○ ○ ○ ○)

第 ○ 学年

氏 名

小豆 太郎

年間目標

- ・自分でできることは自分で取り組み、困った時に自分から助けを求めることができるようになる。
- ・漢字を書くことへの苦手意識を減らす。

できるだけ具体的な支援内容・方法を記入する。

学期目標

	指導目標	支援内容・方法	評価
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からという意識をもつことができる。 ・自分に合った漢字の覚え方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント類のルビ打ちをしないで渡すなど、自分から申し出ること、自分からという意識を持つことができるような場面設定をしていく。 ・漢字を書くことよりも読むことを重視し、いろいろな覚え方を提示し、自分に合った覚え方を獲得できるようにしていく。 	<p>困った時に自分から「〇〇して下さい。」と申し出ることができるようになった。</p> <p>覚え方を指導していく中で、「漢字おもしろいな」と感想を言ったりするようになった。</p>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることを増やしていく。 ・自分に合った漢字の覚え方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習に取り組む。材料や作り方を自分で調べ、調理道具も自分で用意して調理をする。一人一品とする。 ・1学期から引き続いて指導する。提示する覚え方を増やす。 	<p>一人暮らしに向けて、できることを増やしていかなければという意識を強く持つようになり、家庭で調理に取り組んだりするようになった。</p> <p>漢字だけを覚えるのではなく、文章のつながりで覚えていく方が覚えやすいことが分かり、漢字への苦手意識が減ってきたと本人も言っていた。</p>
3 学期			

前の学期内で達成できなかった目標は、引き続き設定しても良い。
支援内容・方法については、見直しをし、変更点を記入する。

毎年内容について見直し、更新する。
 内容に変更が無ければ書き換える必要はないが、作成日と記入者については毎年記入する。

個別の教育支援計画 **記入例**

作成日 令和元年 5月 10日 記入者 (○ ○ ○ ○)
 作成日 年 月 日 記入者 ()
 作成日 年 月 日 記入者 ()

現在の状況について記入する。配慮事項については空欄でよい

(ふりがな) 氏名	しょうず たろう 小豆 太郎	性別	男	生年月日	平成〇〇年〇月〇日
本人の状況	学習障害(読み書き障害)があり、文章を読むのが遅く、漢字や片仮名、アルファベットを書いたり読んだりするのが苦手である。 自分の思いをうまく表現することができず、人と話すのが苦手である。				
合理的配慮の状況	プリント類は、ゴシック体で14ポイントに拡大し、ルビ打ちをする。 タブレットを使用して、板書の記録や音声学習に利用する。 テストでは、1.3倍の時間延長、英語と国語の本文の読み上げ(申し出に応じて)をしている。				
本人の願い	誰とでも話ができるようになりたい。 仕事に就いて、職場の人と仲良くやっていきたい。				
保護者の願い	社会に出て一人で生活できるようになってほしい。 仕事に就いた時には、職場の人と上手に付き合うことができ、離職することがないようにしてほしい。				
学校における支援					
支援目標			支援内容		
<ul style="list-style-type: none"> 自分でできることは自分で取り組み、困った時に自分から助けを求められることができる。 漢字に対する苦手意識を減らす。 			<ul style="list-style-type: none"> プリント類のルビ打ちをしないで渡したりして、困る場面を作ることで自分から申し出ること、自分からという意識を持つことができるようにしていく。 ゲームなどを通して漢字を楽しく感じるようにしていく。 		
関係機関における支援の内容					
家庭	医療関係	福祉関係	労働関係	その他	
教科書のルビ打ちをする。	定期的に通院し、状況を聞き服薬等について指示をする。			学習塾で学習面の補習や予習をする。	

卒業後を見越して、学校でできる支援について書く

現在かかっている機関の支援内容を書く。ない場合は空欄でよい。

LHR 学習指導案

1. 日時 令和元年 11月5日(火) 第5校時 (13:30～ 14:20)
2. 対象学級 1年5組(男子 13名、女子 17名、計 30名)
3. 場所 1-5HR教室
4. 主題 互いに尊重できる人間関係づくりを考えよう
①(自己および他者の個性の理解と尊重)
5. ねらい 「自尊感情を高める」思春期の生徒は自分を客観的に見ることが苦手で、自分の良さに気付きにくいこともある。この授業を通して 自己の個性を見つめ大切にするとともに、他者の視点を借りて自分の良さを指摘されることで自己理解を深めさせたい。また、日頃短所に感じる自分の性格の嫌なところは見方によっては長所になることに気づかせ、自尊感情を高めさせたい。
6. 生徒観 特別進学クラスの生徒であり、円滑な人間関係の構築において必要なソーシャルスキルを有する生徒も多い。中学校から互いの人柄をよく理解しているということもあり、互いの個性を尊重してよりよい集団を作っていこうという意識が高い。

7. 評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現
自分を素直に見つめ、より良い仲間づくりをしていこうとする意欲がある。	自他を客観視しようとする。	自分を表現しつつ、相手を傷つけることなく円滑な人間関係を築こうとする。

8. 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	学習内容を理解する	教師の説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 人にはそれぞれ違った個性があり、誰にでもよいところがあることを伝える。 自分の良さは自分一人では気づきにくいこともあるため、他の人から自分のよいところを教えてもらうのも自己発見の一つの方法であることを伝える。
	活動① 自分自身を見つめてみよう (ワークシート1)	ワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分を知らない人に自己紹介するつもりで「私は」に続く文を作らせる。 「自分の長所」「自分の得意なこと」「自分の短所」「自分の苦手なこと」の4点に関する記述を必ず入れるように注意する。 記述に困っている様子が見受けられる場合には、「参考：人柄を表すことば」を見てもよいと伝える。 <p>※自由に記述することが難しいと思われるクラスは別添付資料の選択肢に○をつけさせるシートをご利用ください。</p>

<p>展開 (40分)</p>	<p>活動② 「あなたのよいところ」発見 (ワークシート1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの生徒とグループを作り、グループ内の各生徒についてのよいところを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジティブな用語のみを使うように指示する。
	<p>活動③ 「あなたのよいところ」の意見交換 (ワークシート1, 2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士で、お互いが書いた「あなたのよいところ」を言い合う。 ・「私のよいところまとめコーナー」を使って自分について整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達から言われてうれしかった私のよいところ」「友達から言われて意外だった私のよいところ」に書かれた言葉は自分自身では気づかなかった自分の良さであることを伝え、自分らしさとして大切にしてほしいことを伝える。
	<p>活動③ 短所のリフレーミング (ワークシート2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、短所の例をリフレーミングするとどのような表現になるか考える。 ・パートナーの短所をリフレーミングすると、どのような表現になるか考えて本人に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短所は長所に置き換えることができることを説明する。 ・必ずプラスの表現を使うように注意する。 ※自分たちでリフレーミングさせるのが難しそうなクラスは別添付資料の選択肢から選ばせるシートをご利用ください。
<p>まとめ (5分)</p>	<p>まとめ (ワークシート3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・self-esteem についての説明を聞く。 ・感想を記入する。 ・ワークシート1、2を提出する。 ・本時の学習の確認を聞く。 ・次回の学習内容の予告を聞く。 	<p>欠点のない人、逆に長所のない人も存在しないことに気づかせる。</p>